

図書館だより No.3

令和 5 年 6 月
大洲中学校図書館



修学旅行シーズン 到来！

体育祭が無事終了し、学校が始まった頃に比べるとなんとなくクラスの雰囲気^{きふき}が和やかになってきた感じかな？クラスのみんなが力を合わせて競い合った体育祭。きっと良い思い出になった事でしょうね。

でも、3年生にはもう一つ大きな行事がありますよね。そうです、京都・奈良への修学旅行です。今年のゴールデンウィーク中の京都・奈良は予想を大きく上回る観光客数で、とても賑わったそうです。コロナに振り回された約3年間の“借り”を一気に返してやったぞ！といった感じですね。

私も中学時代の修学旅行は京都・奈良でした。もう何十年も前のことですが、まだ記憶に残っています。三年生のみみんなも、体育祭に負けないぐらいの楽しい思い出がいっぱいできたらいいですね。

話題の本、到着～っ！ \ (^o^)/

今年もみんなに喜んでもらえるような本をたくさん取り揃えようと思っています。

その第一弾として“^{なぎら}風良ゆう”さんの“^{なんじ}汝、星のごとく”と“^{すみの}住野よる”さんの“腹を割ったら血が出るだけさ”が到着しましたのでお伝えしますね。

風良ゆうさんの“汝、星のごとく”は既にご存じの方も多いかと思いますが、毎年恒例の“本屋大賞”の今年度の大賞受賞作品です。風良ゆうさんは2020年の“^{るろう}流浪の月”に続き見事二冠を達成しました。今まで二度大賞を受賞した作家は“^{おんだりく}風良ゆう”さんと“^{おんだりく}恩田陸”さん(2005年の“夜のピクニック”と2017年の“蜂蜜と遠雷”)の二人だけです。



『汝、星のごとく』 あらすじ

^{ふうこうめいび}風光明媚な瀬戸内の島に育った高校生の^{あきみ}暁海（あきみ）と、^{じゆうほんぽう}自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた^{かい}權（かい）。ともに心に^{けつらく}孤独と欠落を抱えた二人は、^ひ惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が^{つむ}紡ぐ、ひとつではない愛の物語。《講談社 Book 倶楽部 HP より》



『腹を割ったら血が出るだけさ』 あらすじ

“愛されたい”にとらわれた女子高生、ありのままを誇る美しい青年、自らのストーリーを作り続けるアイドル、他者の失敗を探し求める少年……。登場人物が著者作品中最多の青春小説。《双葉社 HP より》

図書館にはリクエストカードが置いてあるので、みんなが読みたいと思う本を購入することもできますよ。すべてのリクエストにお応えすることはできませんが、気になった本があったら、とりあえずトライしてみたらどうですか。リクエスト、お待ちしております～す(^o^)/